



ご報告にあたり

特集

東日本大震災

このたびの東日本大震災において被災されたみなさまには、心よりお見舞い申し上げます。

当会では震災が発生してから被災地の動物支援に取り組み、多くのみなさまから物心両面にわたるご援助をいただきました。

ありがとうございました。

当会が支援として行った取り組みは、次のとおりです。

◎無償による「犬・ねこの一時預り」(疎開の引き受け)

被災された方々が避難生活での気苦労を少しでも軽減でき、復旧に取り組めるようにお手伝いしたいとの趣旨による無償の「犬・ねこの一時預り」、家庭ボランティアの募集。

◎被災地(岩手県)へのペット支援物資等のお届け

インターネットでペットフードの寄付を呼びかけるとともに、被災地(岩手県)への提供と搬送。

これらはおかげさまで無事、滞りなく行うことができました

(※「一時預り」は実施中、6回目となる「支援物資のお届け」は6月にも予定)。

このなかで、動物たちと被災された方々を気遣われるみなさまのこころと善意に励まされました。

復興は緒こついたばかりです。

ペット同行避難者の仮設住宅への入居が制限されたり、福島原発避難区域に取り残された動物たちの悲惨な状況は続いております。

当会は、今後も他の団体・機関とも協力し、動物愛護精神に基づく救援と、被災者支援に微力ながら努めてまいります。

重ねて感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

2011. 5. 20 運営スタッフ一同



支援めも

多くのみなさまからご寄付と援助物資をいただきました。

ご支援、ありがとうございました!

3/11 東日本大震災の支援活動を中心に

◎3/11 午後2時46分、三陸沖を震源とするM9の大地震が発生。青森県から茨城県太平洋沿岸を大津波が襲い、戦後最大の自然災害となる。

◎3/12 定例ふれあい譲渡会の延期を決める。会場を提供してくれているガーラタウン、マエダ西バイパス店さんに連絡。

◎3/13 譲渡会を延期。会員3名が出て、来場の方に事情説明。個別に譲り受け希望を募る。

◎3/14 Tが会員と連絡しあい、支援物資の提供を呼びかける。ねむのき会館に入っている福祉団体関係者が協力。

◎3/15 東奥日報夕刊ミニガイドに「一時預りボランティア募集」の広告掲載を申し込む。✓切の後だったが、急いでいる事情を説明。

◎3/16 午後、会ができることについて意見交換。一時預りなど。話している間にも余震。

◎3/17 県災害対策本部に岩手県向け支援物資の提供を申し入れ。取り置きと買い集めたペットフード、トイレシート、タオルなどを自衛隊浪館駐屯地に夜8時半頃に持ち込む。

東奥日報夕刊に「一時預りボランティア募集」が掲載。この日だけで、13人が決まる。問合せ多数。

東北地震犬猫レスキュー.comで、「一時預り」の利用を呼びかけ。

動物病院などに掲示してもらう「一時預りボランティア家庭」「被災地向け支援物資の提供」を呼びかけるポスターを作成。

◎3/18 岩手県では救護本部の立ち上げを準備。県獣医師会事務局「対策会議中…。現地の動物病院の先生方が調査に入っている…。被災地からはまだ要望が上がって来ていない…。青森県獣医師会三八支部から久慈支部に援助物資が届いた…」

夜、角田さん（弘前市）宅で、ホームページでの「一時預り」の利用、支援物資提供の呼びかけの編集打ち合わせ。

◎3/19 県愛護センターのFさんに電話。震災対応でお手伝いできることを申し入れる。（数年前、八戸のブリーダーが破綻。同センターでは150匹の動物を1匹の処分も出さずに解決したことがある）

◎3/20 HP「ワンニヤンの広場」で、一時預り引き受けと支援物資提供の呼びかけをスタート。

◎3/21 県外からも一時預かりの申し出・問合せが着始める。徳島県からも。

◎3/22 岩手県獣医師会事務局に電話、様子を聞く。「被災地にはエサを配給…。一時預りも行っている…」。

県災害対策本部に2回目となる岩手県向けの支援物資の提供を申し入



れ。「ペット関連物資は岩手県からの援助要請リストにない」との理由で断られる。人間用の衣類も新品に限られるという。「衣類は洗濯済みで清潔なものばかり」とTが粘って認めてもらう。ほかに座布団、男女シューズ、女性用バッグなど（少しだけ……も）。

◎3/23 県内で一番早く、一時避難者受け入れを表明していた西津軽郡深浦町役場、観光協会に電話。犬・ねこ同行で困っている方がいたら、一時預りしますと申し入れる。

ねむのき会館で、この日までに集めた物資を整理。前田さん、佐藤さん、Tが参加。夜8時半頃、三浦（俊）さんにも手伝ってもらい、2台で浪館駐屯地に搬入。

◎3/24 ペット関連、新品でないもの、援助要請リストに載っていないものは自衛隊の輸送ルートが使えなくなったので、直接、被災地に届けることにする。現地役場とは連絡が取れないので、岩手県災害対策本部を介して大槌町役場に連絡を取ってもらうことを依頼。

東北道開通。高木さん（弘前）から携行缶2個、コラムニストのOさん（青森市）の紹介で北斗高校Kさんからも借りる。

フードを買い増し、給油にあちこちのGSを回る。バッテリー、エンジンオイルを交換、ライトを調整。

◎3/25 朝5時、三陸に向けて出発。

盛岡まで2時間、宮古まで80K・2時間、さらに1時間。目標は「ひょっこりひょうたん島」「吉里吉里人」のモデルとなった大槌町。

ペットフード、トイレシート、捕獲器、ケージ、漁網、タモ網、リード、オレンジ10個くらい、ウィダーインゼリー4個ほか、レーズンパイ、バター煎餅、チョコ、黒糖飴玉、切り餅、かなりの水、デジカメ2台、ラジオ、地図2冊、イソジン、目薬、胃薬、替え靴下・下着、マスク、滑り止め軍手、懐中電灯、レインコートなど。ヘルメット、ロープ、シャベル、脱出器…かなり緊張。

前日に東北道が開通したばかりのせいか、弘前インターまで追いつく車がない。対向車線を、大型トラックが青森方面に向う。

秋田、岩手に入ると車が多くなる。盛岡インターを下りてすぐのGSに車が長蛇の列。青森の3倍はある。

宮古への106号線は崖、川沿いの道が延々と続く。途中の区界高原で一休み、眠気を覚ます。若い自衛隊



員が売店で買物をしていた。

11 時頃、宮古着。河川公園は一面、泥だらけ。車が川に、小舟がグラウンドに転がっている。余震。

岩手県獣医師会宮古支部（会長・田口さん、グリーン動物病院長）に寄る。支部には合わせて犬 20 匹、ねこ 8 匹くらいが避難。オウムがギャ

オ、ギャオ鳴いている。怖かったのだろう（飼い主さんは死亡）。ハムスターもいる。

「一時預り（無料）」の趣旨を説明し、お知らせのチラシを貼らせてもらうことにする。フードを提供。

NHK 盛岡放送局に電話。生活情報で流してもらうことにする。



宮古から国道 45 号を釜石方面に走る。道路の両側は瓦礫だらけ。クルーザーが打ち上げられている。途中、山田線で機関車がくの字に曲がり、脱線していた。

津軽石のアトム動物病院で話を聞く。「かなり津波に流されたものでは…」ここにも「一時預り」のチラシを貼らせてもらう。



南下。行けども行けども残骸の荒野だ。流れ着いた家、車、船…。



山田町を迂回、山沿いの三陸道路に入る。高架橋から全滅した集落が眼下に広がる。遠くの海に島が浮かんでいる。高架橋の下を通過して津波が山際まで押し寄せたのがわかる。

大槌町に入る。入口の集落で人だ



かり。「…さんのうちでは3人亡くなった…」と地元の人たちが立ち話している。一面、焼け焦げた残骸だらけだ。犬・ねこの姿どころか、カラス、カモメもない。漁る残飯がないからだろう。

安渡小学校に身内が避難しているという、黒柴を連れた若い男性の話。路上で犬・ねこは見えていない…。1000人くらいが避難…。自衛隊員が子犬を抱えていたのを見たというので、第9師団と書かれた車を降りた人に聞いたら、「そういう関係は自治体に連絡しているはず…」。

ときおり、救急車とすれ違う。搜索の自衛隊の車、重機が行きかっいて慌しい。空気が澁んでいる。





「犬・ねこの一時預ります」「深浦町で一時避難引き受け情報」のチラシを入口に貼ってもらうことにし、フード、用意していた菓子類と水を渡す。捕獲器、網の出番なし。

井上ひさしの小説「吉里吉里人」の舞台となった入り江の集落は山際、坂の上の住宅地を除いて壊滅。

帰路、近道だと思った道は峰…峰…、崖…崖…。鬼剣舞の武者が出て来そうだ。かなり時間をロス。やっと106号に出る。8時半頃、盛岡インターに向かっていたら緊急地震速報。目の前に長い橋。アクセルを踏み込み過ぎて道に迷う。夜11時帰宅。

このころ、一時預りの申し込み、県外からの寄付が多くなる。



◎3/27 やっと大槌町から電話が入る（Oさん）。29日、物資を持ち込みたいことを伝え、了承を得る。

ねむのき会館で物資を整理。前田さん、今さん、佐藤さん夫妻が参加。

◎3/28 出発の準備で物資の整理。近所の山上さんがお手伝い。

◎3/29 朝5時頃、再び三陸へ出発。小道具のほかペットフード、シート、ウェットティッシュ、紙製皿・コップ、衣類（新品でないと県も市も受け取らない）など。今回は軽装備だ。

大槌町臨時役場は町を見渡せる丘の上、中央公民館にあった。松林に燃えた跡がある。車、人でごった返している。Oさんに連絡。降ろすのを自衛隊の人達が手伝ってくれる。





ボランティアセンターが前日に発足。遠野からボランティアで来ていた方に話を聞き、案内してもらう。廊下で若い女性が海水が染みこんだ写真を整理（探？）していた。

玄関ホールの隅に犬2匹（コーギー、柴）が避難していた。ポメラニアンは散歩中。ほかの避難所にも数匹いるらしいけど、極端に少ないよ

うだ。どこかに隠れていればいいのだが…。犬と一緒に避難した人たちはホールから後で出されることになったのだが、少し寒いのを我慢すればこのほうが落ち着く。

コーギーのムムちゃんの飼い主のおばあさん「逃げる途中、振り向き振り向き導いてくれたんですよ。娘は亡くなりましたけど、この子がいるから寂しさもまぎれます」。逃げたシェパードが飼い主を探しに家に戻ったという話も聞かせてくれた。

大きなメッシュ付きのクレートに入っていた柴のムムちゃんの飼い主のおじさん「この子は痙攣が起きたみたいで動けなかったんだ。で、抱えて坂道を登ってきた。すぐ後に津



波が迫っていてほんのわずかなところで波に吞まれるところだった」

掲示板に「犬・ねこの一時預かりします」「西津軽郡深浦町で一時避難引き受け情報」のチラシを貼ってもらう。この日もケージ、捕獲器は不用だった。夜 12 時帰宅。

◎4/1 宮城県・多賀城市の方から、一時預かりの依頼。黒ラブ中型ミックス 1、雑種 2。うち 1 匹は余震におびえていつも震えている…。

◎4/3 ホームページに「御礼とご報告」pdf をアップ。

◎4/4 仙台市若林区荒浜の O さんから預り依頼。仙台市動物管理センターから紹介されたという。余震が続くなか、被災したマンションにワンちゃんと暮らしているのだが、避難所に行ったら断られたそう。

午後、メールが使えなくなる。MSN からは「何者かが…の可能性」とい面倒なメッセージ。なかなか復旧しない。

◎4/6 河北新報の生活情報に当会の「一時預り」が掲載される。

◎4/8 メールの復旧をあきらめ、新しいアドレスを設定。

wannyan12yobi@hotmail.co.jp

仙台 O さんから電話。「まだ頑張れますから…」と言ってたのだが、昨夜の大きな余震でマンションから全部退去したので、仕方なく避難所に行くことになったもの。

◎4/10 定例ふれあい譲渡会＆バン

ダナプレゼントを開催。

◎4/11 東北道で水沢へ。友人を介して頼んだ T さんと落ちあい、O さんのラブちゃんを引き取る。わが家の犬たちの眼が (♡) になりそうな可愛い、赤いリボンをしたヨーキー。



◎4/12 午前、福島から八戸に避難した T さんからネコの預り依頼が県愛護センター経由で来る。

◎4/13 読売新聞夕刊に当会の取り組みが載ったことが、千葉県の方からの電話で知る。記者からは大槌町臨時役場の掲示板でチラシを見たとのことで数日前に取材を受けていた。

物資の提供、寄付の申し出、励ましの電話がこの日からしばらく続く。

◎4/14 ラブちゃんを三沢の A・S さん宅にお届け。ご主人がアメリカの方。お行儀よくシートにおしっこ。



キョロキョロしながら辺りを探検
(…その夜、ラブちゃんは安心した
のか、爆睡…)。

◎4/15 山田町に支援物資の搬入を
申し出る。ボランティアセンターか
らは「現場から要請が上がって来て
いない」との返事。田野畑村と連絡
を取り、行き先を変更する。

夕方、仙台・石巻をボランティア
で訪れていたドッグガーデンさん
(青森市)から仙台市太白区のKさ
んから預りを依頼されていた黒猫ク
ーちゃんを引き取る。ドッグガーデ
ンさんは仙台に引き返して受け取っ
てくれていた。

夜、岩手県大槌町安渡の方から飼
い犬・猫を探しているとの問合せ。
3/11に被災した後、ずっと気がかり
だったそうだが、発信手段がなく呼
びかけられなかったとか(被災地で
はインターネットが使えない)。

◎4/17 KさんとFさんの2台の車
で岩手・田野畑村に向う。朝6時頃
出発、コースは青森～東北道～八戸
道～九戸インター～久慈～45号線
～田野畑村を往復。

野田村付近の海岸。防波堤が決壊、



テトラポットの列が崩れている。天
気がいいというのに、海沿いの松並
木が枝を引きちぎられて寒々として
いる。

10時30分、到着。田野畑村は山
村といった感じ。教育委員会を訪ね
る。たまたま会った教育長さんが青
森市浪岡の出身。支援物資はペット
フード、トイレシート、犬用シャツ
など。それに津軽りんご、青森市の
NPO法人/ジュニア・グローバル
トレーニングからいただいた天然
水・文具、前田さんが用意してくれ
た新品の靴下・下着など。ノートに
記録していた役場の職員さんは
…???…の面持ち。

村の人口は約3800人、久慈市と宮
古市のほぼ中間。岩手でも最も過疎



が進んでいる。
それだけきずな
が深く、のどか。

グラウンドの
外れにトラック
が止まっていて、
その陰に犬小屋
が2つ。元ノラ
のミックス犬が
2匹、木陰で休
んでいる。トラ
ねこがキャリー



間にあわなかった…。

震災当初は 500 人ほどが
アズビィホール、体育館な
どに避難していたが、現在
は 200 人程度。犬・ねこも
けっこういた。今はほとん
ど引き払っている。

被災 1～2 日目は各家庭
から米を 1 キロ、2 キロと



の中に。飼い主のお孫ちゃんが飽か
ずに見ている。ほかに避難していた
のは体育館（荷物仕分け所？）の横
につながれて吠えていた中型犬。

飼い主さんが当日のことを話して
くれた（港近くから避難していた漁
師さん）。津波が来るまで 40 分くら
いあった。引き返して被害にあった
人もいた…。死者を一人も出さなか
った隣の譜代村にならって高さ
15.5mの防潮堤を建設中だった、



かき集めて炊き出しをした。3 日目
に、姉妹都市を結んでいた埼玉県川
本町（深谷市）から米を積んだ 4 ト
ントラックが来村…。1 週間ほどし
てから米、野菜、生活用品を満載し
た 10 トラックが 4 台来た…。国、県
の援助よりも姉妹都市の連帯感がど
こよりも早かったようだ。

青空が広がる穏やかな日和。海岸
に向って急な坂道を下ると津波の爪
痕があちこちに残っていた。三陸鉄
道のコンクリートの頑丈そうな橋台、
線路が流されている。山際の十数軒
を残して集落は壊滅し、漁港、観光
施設など全てが流されていた。

帰路、海を一望でき国道 45 号沿い



のレストランで遅い昼食。黒い波の列が次々と押し寄せたのが目撃されたはず。眼下に防波堤が崩れた、小さな漁港が見える。

野田村付近、瓦礫がうず高く山積みされている。九戸村の道の駅「オドデ館」で休憩。オドデ様とは体がふくろう、足が人間の伝説の怪鳥。

予定より早く青森に着く。夜、ホームページ掲示板に報告を書き込む。

◎4/20 弘前に避難を考えているという南相馬市のKさんから、ねこの預り依頼。

◎4/24 青森テレビの取材を受ける。その後、県愛護センターの意見交換会に木村さんと出席。被災動物受け入れと協力体制、緊急災害時動物救援本部の助成について。全部で7団体が参加、一堂に会するのはセンターが06年にできてから2回目。北里大学しっぽの会のメンバーに八戸～青森間でリレーする場合、協力をお願いと頼んだら快諾してくれる。

イオン「黄色いレシートキャンペーン」の贈呈会がジャスコ青森店で

あり、Tと伊勢野さんが出席。

◎4/29 飼い主さんが脳梗塞で入院し、田舎館村社会福祉協議会の依頼で2週間前から預かっていたミニチュアダックスのホップちゃんを戻しに川部へ。このホップちゃん、24歳…??? 飼い主さんに聞いたら、本当だという…で、またまた???

◎4/28 全国のNPO、ボランティア団体の組織、東日本大震災支援全国ネットワークに加入、登録。

◎5/1 クーちゃんを三沢市のMさん宅にお届け。デーリー東北のYさんが同行。偶然にもご主人がアメリカの方。先住猫の太っちょコンビ、ルーシーちゃんとジョージちゃん（どちらも8K以上はある!）が



いるせいか、体を硬くしている。しばし、ねこ談義。庭に水仙…。2、3日前から見かけるというトラ猫くんがベランダを行き来していた。

